



県病医療ニュース

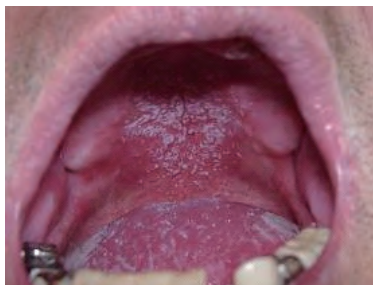
〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線2322:県病ニュース係
 ※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

歯科口腔外科

口腔カンジダ症にご用心!

口の粘膜に白い苔のようなもの(白苔)^{はくたい}が付く、赤くなる、ヒリヒリする、口の中に苦みを感じるといった症状はありませんか。口の中でカンジダ菌が増えているのかもしれませんが。免疫力の低下、口腔乾燥がある方、入れ歯を装着している方に「口腔カンジダ症」は増えています。

症状 口腔カンジダ症には色々な症状があります。



偽膜性カンジダ症^{ぎまくせい}: ヨーグルトのだまのような白苔が粘膜表面に付きます。この白苔はガーゼなどで拭えます。



紅斑性カンジダ症^{こうはんせい}: 口腔粘膜が赤くなり、ヒリヒリとやけどしたような感覚や痛みが生じます。



肥厚性カンジダ症^{ひこうせい}: 徐々に口腔粘膜が厚く固くなり、腫瘍や白板を形成することがあります。白苔は剥離しにくいです。

原因

健康者の口腔内にもいるカンジダ菌^{しんきん}という真菌(カビの一種)が異常に増殖し、病原性を発揮することが原因です。抗癌剤などによる免疫低下、口腔乾燥、消毒薬での過度のうがいによる常在菌のバランス悪化が異常な増殖につながります。また、入れ歯と口腔粘膜の間には唾液が流れにくい^{ため}カンジダ菌増殖の温床になりやすいので気をつけなければなりません。

予防

毎食後の歯磨きとこまめなうがいで口の中を清潔に保ち、適度な湿度を維持することが大切です。入れ歯は毎食後入れ歯用ブラシなどで水道水を流しながら洗い、1日1回は入れ歯洗剤で清潔にしましょう。また、歯磨き剤は研磨剤入りのものが多く、歯磨き剤で洗うと入れ歯に細かい傷が付く、カンジダ菌増殖の温床になるので、使用しないで下さい。

治療

抗真菌薬を含むうがい薬や塗り薬などを使用します。薬の内服が必要になる場合もあります。早めに医師にご相談下さい。

(歯科口腔外科 吉岡 俊一)

看護部
専門・認定看護師
シリーズ10

痛みを我慢していませんか？

～がんによる痛みをやわらげ、快適に過ごすために～

痛みは、多くのがん患者さんが経験する症状の一つです。痛みにより、食欲がない、眠れない、仕事や家事に集中できないなど、日常生活にも影響が出ます。また、痛みが続くことで、人間の体は痛みにも敏感になります。少しでも快適にすごしたり、がん治療に専念したりするために、痛みをやわらげることがとても大切です。今では様々な薬が開発され、痛みを和らげることができます。特に「オピオイド」(医療用麻薬)は、がんの痛みにとっても効果があります。

日本人は欧米人と比べて痛みを我慢する傾向にあると言われていています。また、薬に対する誤解から、痛み止めの使用に抵抗がある方も多いようです。患者さんの痛みに対しては、その原因や治療、ケアを、医師、看護師、薬剤師など多職種で検討します。

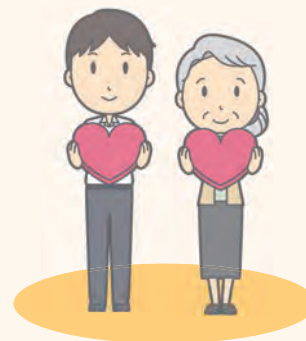
効果的に痛みをやわらげるためには、患者さんと医療者が情報を共有し、一緒に方法を考えることが大切です。痛みでつらい時は我慢せず、主治医や看護師にお伝えください。



よくある質問

<痛みについて>

- がんが進行しているから痛いのでは？
⇒病気の進行と痛みの程度は必ずしも一致しません。
早期でも、場所によって痛みが強い場合もあります。



<オピオイド(医療用麻薬)について>

- 脱法ハーブや覚せい剤とは違うの？
⇒違います。オピオイドは安全性が証明された医療用の薬です。
- 中毒になるのでは？
⇒医師が適切に処方すれば、中毒にはなりません。
- どんどん痛み止めが増えるのでは？
⇒痛みにあわせて薬の量は調整します。痛みが強ければ増やしますが、痛みが軽くなれば減らすことや中止も可能です。

(がん性疼痛看護認定看護師 川野京子)